

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

着果管理

9月は、養分の使われ方が果実の肥大や枝・根の成長から果汁蓄積に移り始める時期です。この時期に摘果作業を行うことで、果実の肥大をある程度抑え、残した果実に養分が集まり果実品質の向上が見込めます。後期摘果と呼ばれる青島ミカンで推奨されている方法で、摘果時期は、果面が滑らかになる9月中旬頃から10月中旬までです。

品質向上の為、短期間で1果に対しての適正葉果比（30〜35枚に/1果）に近づけましょう。摘果をする果実は極小玉果、極大玉果、内スソ果、キズ果、腰高果等です。

病害虫防除

9月以降は、ミカンハダニの被害が収穫時の果実に残るので、発生には充分注意しましょう。また、温暖化により、その他の病害虫の発生時期も伸びる傾向にあります。園地を良く観察し、適期防除に努めてください。

- ・黒点病 ペンコゼブ水和剤 500倍(30日〜4回)
- ・チャノキイロアザミウマ
- ・スタークル顆粒水溶剤2000倍(前日〜3回)
- ・ミカンハダニ
- ・ダニゲッターフロアブル 2000倍(前日〜1回)
- ※7・8月に引き続き、果皮障害軽減を目的にバイカルティ1000倍を混用散布します。
- ※ミカンハダニの発生が見られる場合にダニ剤を混用散布します。

※黒点病は発病が20〜27℃、多雨で発生を助長します。黒点病防除後、30日経過するか累積降雨量が250mmになった時点で薬剤の効果が弱まるので、黒点病の再防除を行ってください。



果樹林産センター 信方浩志郎

後期摘果で品質向上